

(1) 学校経営の改革方針における今年度の重点取組についての評価結果

項目	行動計画の目標・評価方法	達成状況・評価結果	具体的取組に関する成果や課題
教務	<p>1. 生徒が授業に真剣に臨む姿勢を身につけ、基礎学力が向上するよう取り組みます。</p> <p>(1) 教務からのクラス掲示(「授業は学校生活の基本」)、新入生研修会、各学期末の教務講話を活用して授業の重要性を生徒に伝えるとともに、学期末に「基礎学力ウイーク」を設け、国語・数学・英語の基礎学力を養成します。</p> <p>(2) 年度末の不認定科目を、前年度比50%減少を目指します。</p>	<p>(1) 「授業は学校生活の基本」を全クラスに掲示し、担任より指導を行った。教務講話においても、授業の重要性をうったえた。2学期と3学期の期末考査終了後に、1週間「基礎学力ウイーク」を設け国語・数学・英語の基礎力の定着を図った。</p> <p>(2) 不認定科目数が昨年に比べ増加し、減少は出来なかった。</p>	<p>○基礎学力の定着を図るため「基礎学力ウイーク」を設けたが、次年度も引き続き改善等を図りながら取り組んでいく。</p> <p>○成績不振の生徒には、1学期及び2学期の保護者会の時に教務との面談を実施して指導をした。今後もしばしば細かい対応をしていかなければならない。</p>
部	<p>2. 校舎制の特徴を生かした教育活動の実践に取り組む。</p> <p>(1) 「総合的な学習の時間」等を活用した生徒交流、「公開授業」における各校舎教員の相互参観などを行い、校舎制を推進します。</p> <p>(2) 年間3～4回の生徒交流を行います。また、常勤教員の70%以上が他校舎の公開授業・授業研究に参加します。</p>	<p>(1) 1・2学年において、度会校舎と合同で合同交流会を行った。授業公開(9月度会校舎、11月南勢校舎)で、度会校舎と相互参観を実施、教員の参加率約40%であった。</p> <p>(2) 生徒間交流は、上記交流会をはじめ、文化祭での生徒会役員の交流や夏の野球応援、図書委員会の交流等4回以上の交流を行った。</p>	<p>○「総合的な学習の時間」について、校舎間で合同実施を協議したが、実施には至らなかった。次年度は合同実施を実現したい。</p> <p>○今後とも、度会校舎の教務と積極的に連携し、相互交流を推進していくとともに、指導力の向上を図るために継続して取り組む。</p>
生徒指導部	<p>1. 生徒が基本的な生活習慣を身につけ、規律ある学校生活を送れるよう取組む。</p> <p>(1) 毎朝、校門等において登校指導を行うことにより、生徒の不注意による短時間遅刻を減少させるとともに、礼儀正しい挨拶ができるよう指導を行います。</p> <p>(2) 校門遅刻者の数、前年度比20%減少を目指します。また、80%以上の生徒が立ち止まって挨拶ができるようになることを目指します。</p>	<p>(1) 毎朝、生徒指導部全員で登校指導を行った。また、同部以外の教員にも協力を得られ、学校全体で取り組む体制ができた。</p> <p>(2) 校門遅刻者数は前年度比で22%減少し、当初の目標を達成することができた。また、ほぼ100%の生徒が礼儀正しい挨拶をするようになった。</p>	<p>○遅刻を繰り返す生徒に対しては迅速に家庭連絡をするなどして、家庭における生活習慣の改善を図る取組をしていく。</p> <p>○朝の挨拶では、ほぼ100%の生徒が礼儀正しく行っているが、下校の際の挨拶や外部来校者に対する挨拶はまだ不十分である。社会生活において挨拶の持つ意味を十分に理解させ、より指導を深めていく。</p>

<p>進路指導部</p>	<p>1. 生徒が将来の自分の生き方を考えた上で、卒業後の進路決定ができるよう取り組みます。</p> <p>(1) 進路講話や進路ガイダンス等の内容を点検し、生徒一人ひとりが現在の自分を確認し、将来の自分を思い描けるような内容にしていきます。また、企業や上級学校との連絡を密にし、該当学年との連携を図りながら、生徒の希望が叶えられるような進路指導を行います。</p> <p>(2) 3年生においては、卒業時点での進路決定率100%を目指します。1・2年においては、年度末に進路希望調査を実施し、学年末での進路未検討生徒の割合が、1年生は30%未満・2年生は10%未満となることを目指します。</p>	<p>(1) 進路講話・体験型進路ガイダンス・企業視察研修会等を実施し、進学・就職の調査だけでなく、就労条件なども含めて内容をしっかり考えた上で進路決定が図れるよう指導できた。</p> <p>(2) 卒業時点での進路未決定者は6名。生徒の希望する条件等の求人が少なく、就職希望の実現は困難であった。また、未決定者の多くが進路決定するという意欲や取組が弱いことも、進路決定を難しくする要因である。しかし、早期から学習に取り組み、公務員試験に合格した生徒もいた。</p>	<p>○県やハローワークの主催する合同求人会に何度か足を運んだが、求人数の増加にはつながらず、また個別の企業訪問も、生徒の強い希望がなければ求人依頼しにくい。</p> <p>○3年生には4月の早い段階から具体的に就職希望先を絞らせることが必要である。また、1・2年生においても就職状況と自分の実力をしっかりと把握させる必要がある。</p> <p>○日頃の学習習慣の乏しい生徒には各分掌・学年と協力して、学習習慣を図る環境づくりが必要ではないかと考える。</p>
<p>人権教育</p>	<p>1. 日常の授業の中に人権教育を取り入れ、幅広い視野で、得意分野を探りながら、全教員で人権教育に取り組みます。</p> <p>(1) 全教員が少なくとも1講座で年間1回は、生徒に明確に伝わる形で人権教育を実施します。また、研修交流会を持つことで互いの工夫や知恵を学びあい、生徒理解を深めます。さらに、生徒参加の人権懇談会が設定できるよう取り組みます。</p> <p>(2) 研修交流会・人権懇談会への常勤教員の参加率90%を目指します。また、受講生徒の授業満足度80%を目指します。</p>	<p>(1) 今年度からの取組であったこともあり、講座での人権教育の実施は7割弱(67%)程度であった。研修交流会は2月に開催し、全員参加した。</p> <p>(2) サークルも委員会もない状況での生徒参加の人権懇談会の設定を目標にしたが、実現できなかった。</p>	<p>○授業での人権教育の実施テーマの件数は延べ18件。気軽に実施していける職場の雰囲気醸成していきたい。</p> <p>○正規教員の次に常勤講師、さらに非常勤講師へと取組の輪を広げていくことが課題。</p> <p>○通常授業に人権感覚をにじませる歩みを続け、校内の人権文化の定着に全員で取り組む努力を続けたい。</p> <p>○サークルや人権委員会の創設、さらに南勢地区わかフェス実行委員参加を目指すためには継続的な取組が必要である。</p>

(2) 組織の状況の評価結果

アセスメントから明らかになった状況	
強み	1. 小規模校であり、生徒一人ひとりに行き届いた指導ができる。教員間で指導に関する情報の共有も図りやすい。 2. 地域の各機関との連携や交流が行われており、地域からの理解や協力を得られやすい。 3. 学校運営や教育活動に個々の教員の意見が反映しやすく、取組意欲の高揚を図りやすい。
弱み	1. 小規模校のため教職員一人ひとりの役割分担が多く、生徒との対応する時間を取りにくいことがある。 2. 生徒、保護者などの満足度を把握する取組が不十分で組織力向上への推進に繋げにくい。 3. 部活動やサークル等の活動種類が少なく生徒の希望に沿いにくいいため、部活動に対する満足度が低い。

(3) 学校関係者による評価結果

学校関係者評価から明らかになった改善課題
1. 小規模な学校なので生徒が互いに切磋琢磨する機会が乏しい状況である。度会校舎と連携を取り、共通の資格取得や学校行事などを活用して、互いに競い合えるような取組や環境づくりをしていくことも必要である。
2. 生徒数も減少していくことから、部活動の活性化においても影響が出ている。部活動の精選も必要であるが、部活動の有益性等を生徒や保護者にアピールして活動する人数を増加させていく必要がある。

(4) 組織力向上のための取組（改善策）

次年度に向けた取組
1. 本年、地域や地元中学校の意見や情報の交流を深めるために「南伊勢高校の今後を考える会」を立ち上げた。この組織を中心として、地元中学校や町教委との連携を深めていく。
2. 基礎学力の育成・向上が課題であるとの共通認識があり、基礎学力を高める取組のひとつとして「基礎学力ウイーク」を実施してきたが、さらに効果的な内容やシステムを構築していく。また、教師の授業力を高める取組として公開授業を実施するとともに研究授業を実施する。
3. 他校との連携や中高の連携を図るとともに、教師の指導力の向上を図るために、相互の公開授業や研究授業に積極的に参加していく。
4. 度会校舎と校務組織の一体化を図り、校舎間での連携を推進していくとともに協力を構築していく。